

「子供たちの未来づくり」③

「よのなか教室」体験記 その2



今、日向市内の小中学校では「よのなか教室」が様々な形で広がりを見せはじめている。富島中学校では、2年生の職場体験の前の事前学習として「よのなか教室」と「パネルディスカッション」が行われた。この「よのなか教室」では10人の働く大人が3回ずつ話をされた。そして、その1週間後に企画されたパネルディスカッションの進行役を仰せつかることになった。

テーマは「働く上で大切なこと」。生徒代表の3名と、働く大人4名による真剣なやりとりになった。仕事を選ぶ上で大切に考えることは何かという問いに、生徒たちからは「自分の好きなこと、やりたいこと」という答えが多かった。ところが4人の大人たちの答えは実に様々だった。先ず豊かに生活するためにはお金を得なければならぬことを説く人、自分のためだけでなく人や社会のために役に立つことが大事と説く人、自分の夢を実現するために働くことこそ意義があると説く人・・・と、実に様々なのである。

生徒たちはきつと大いに迷ってしまっただけである。考え込んでしまっ

ている子もいた。でもそれでいいんだと思う。中学生のこの今の時期に「将来自分は何をしたいか?」と考えて思い悩む経験こそが



「やりたい仕事」だけでなく「やれる仕事」「やるべき仕事」を選ぶ力にきつとなると信じている。

もう一つ、とても気になることがあった。それは、職場体験を控えて「失敗したらどうしよう」「失敗しないためにはどうしたらいいのだろう」と不安を持つ生徒がたくさんいたことだった。失敗することを極度に恐れているのである。職場体験を受け入れる予定の職場の方が「失敗してもらおうのが勉強になる。決して心配することはないよ。」と話してくれた。我々大人は子供たちに、もっともつと失敗の経験をさせたり、語ったりすることが必要なのではないかと強く思った。

文/日向市キャリア教育支援センター長

水原 正憲